

出願期間：2008年12月1日(月)～11日(木)

入試日程：2009年2月上旬～中旬頃(予定)

合否発表：2009年3月16日(月)

入学時期：2009年4月

*詳細は
「募集要項」を
ご覧ください

【出願資格】(受入予定人員：若干名)

- 原則として企業等から派遣される社会人であること
- 出願時まで2年以上の職業経験を有していること
- *修士の学位がなくても、大学や研究所で2年以上の研究実績があれば受験が認められる場合があります

【出願要件】

- 指導を受けたいと思う教員に連絡をとること
- 2007年2月以降に受験したTOEICの結果(スコア)を用意すること
- 出願期間の最終日、12月11日(木)までの消印で15日(月)必着のこと
- *官公庁にお勤めの場合は、出願時に所属長の承諾書(適宜様式)が必要です

【口述試験】

- これまでの研究実績および入学後の研究計画について12分以内で発表すること(プロジェクターの使用可)
- 時期は2009年2月上旬から中旬を予定。最新情報をウェブサイトで確認すること(10月初旬には発表予定)



お問合せ・募集要項配布
東京大学先端科学技術研究センター
企画調整チーム教育研究支援担当

〒153-8904 東京都目黒区駒場4-6-1(13号館1階)
TEL: 03-5452-5385 FAX: 03-5452-5398
Email: exam@rcast.u-tokyo.ac.jp
www.rcast.u-tokyo.ac.jp/ja/

代々木上原駅(小田急線・東京メトロ千代田線) 徒歩12分
東北沢駅(小田急線) 徒歩7分
駒場東大前駅(京王井の頭線) 西口より徒歩10分
池ノ上駅(京王井の頭線) 徒歩10分

*この冊子は再生紙を利用しています

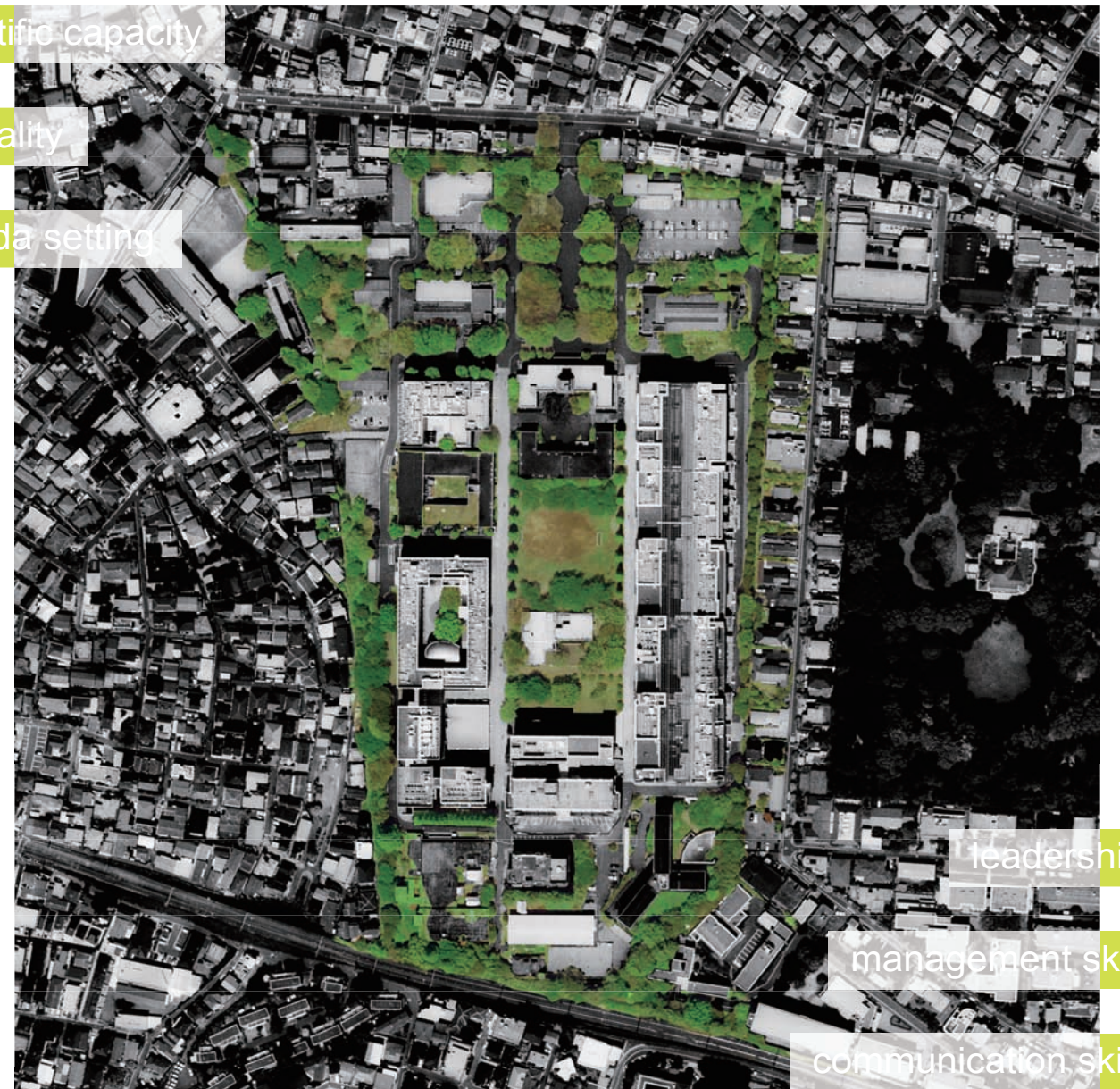
東京大学先端科学技術研究センター Commitment for Your Future

2009年4月、21世紀のグローバルコミュニティーが求める博士コースがスタートします。

scientific capacity

speciality

agenda setting



leadership

management skill

communication skill

東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻

先端科学技術イノベータコース(博士課程)

Doctoral Program, Department of Advanced Interdisciplinary Studies, Graduate School of Engineering, The University of Tokyo



東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻とは？

先端学際工学専攻は、1992年4月に設置され、先端的科学技術に関する萌芽的・先導的な基礎/応用研究、そのような研究そのものに関する研究 (Research on Research) の教育・研究指導を行っています。開設当時から、企業に在籍したまま大学院教育を受けられる社会人の再教育機関としても先駆的な役割を果たしてきており、先端科学技術分野に関する独創的・創造的な研究者を輩出するだけでなく、広い視野に立って先進的・国際的なリーダーシップを発揮できる実務者の養成をそのミッションに掲げています。



先端科学技術イノベータコース (博士課程) の内容や特色は？

1. 研究テーマ選びなど、柔軟に対応

指導を受ける教員と研究歴、研究能力などについて事前面談を行い、研究テーマや研究場所、博士号取得までのスケジュール等について派遣元のニーズを柔軟に反映させることができます。

2. 最先端研究の前提となる基礎力を強化

学際的な指導教員陣を活かし、最先端研究の前提となる基礎力を強化する科目 (統計学、プログラミング、知財関連、技術経営等) を学生や派遣元のニーズに合わせて開講します。

*先端学際工学専攻で開講されている科目だけでなく、他の研究科で開講されている科目を履修して単位を取得することもできます。

3. 能動的な立場で自己鍛錬する PPP 教育



- リーダーシップを意識した研究活動の実践
- 研究活動に必要な不可欠な英語によるプレゼンテーション能力向上
- より幅広い知識獲得の機会を提供し、論理的に研究戦略を組み立てる能力を養う研究企画書 (プロポーザル) 作成を指導

先端科学技術イノベータコース (博士課程) のミッションとは？

近年、研究開発競争はますます国際化、高速化しています。そこで社会人再教育の意義を問い直し、高い専門能力だけでなく、複雑化・多様化する課題への対応能力を備えた人材を養成するために、本コースをスタートすることになりました。「博士」の学位を取得する過程で、最先端研究に必要な基礎力を強化し、専門能力に磨きをかけ、研究マネジメント力を獲得したいと願う社会人のために、その人に合った形で教育プログラムを提供します。



4. 世界トップクラスの多彩な教授陣

先端科学技術イノベータコースで教鞭をとるのは、ほとんどが東京大学先端科学技術研究センター (先端研) に所属する研究者です。学生は、世界トップクラスの研究所で、最先端研究に触れながら、ハード・ソフト両面で充実した環境の中、自身の研鑽を積むことができます。

5. 入学試験に TOEIC の公式スコアを採用

従来の TOEFL に替えて企業で広く採用されている TOEIC スコアの提出を認めています。(なお、本学大学院修了者はいずれの提出も不要)

6. 勤務形態に合わせた履修計画

標準修業年限は3年ですが、その間に達成し得る平均的業績よりも優れた業績を上げた場合は、2年で学位を取得することも可能です。

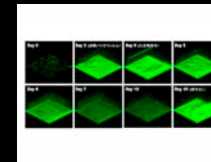
7. 学位取得までの費用

3年で修了する場合、学費として190万円程度かかる見込みです (2009年4月入学)。

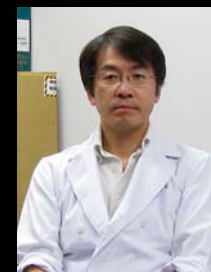
*内訳：
受験料 30,000 円 / 入学料 282,000 円 / 授業料 520,800 円 × 3 年

先端学際工学専攻の指導陣から一言コメント

化学・生物学の両分野をバックグラウンドにもつ人材が集まり、活発に議論しながら研究戦略の詳細を決めていく、切磋琢磨する研究室です。特に英語には力を入れていて、**必ず英語でプレゼンを行う機会があり**、また研究室のメンバーも国際性に富んでいるので全ての博士学生は卒業する頃には英語で十分なディスカッションができるまで成長します。(菅裕明教授：ケミカルバイオテクノロジー)



ヒトが日常生活で支障を来すバリアーを取り除くため、その傷害を科学的に分析して現場が求めている機器開発研究を進めています。リハビリテーション科学、人間工学、福祉工学の融合研究としてのヒトの運動と感覚機能障害の評価治療や高齢者・障害者の身体活動を向上させる保健医療福祉に関する機器開発を進めています。**バリアフリー研究**は、これからの私たちの社会に密接に関する新しい研究分野として、ますます発展させていきたいと考えています。(田中敏明教授：人間情報工学)



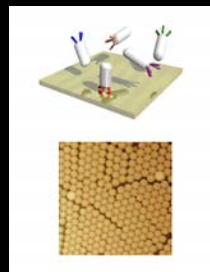
研究室ではグローバルな気候変動 (地球温暖化) や、アジアの大気汚染が日射・水循環へ及ぼす影響などの研究に加えて、大気成分 (特に微粒子) を計測する新技術の開発も行っています。学生には、大気中の化学反応や輸送過程を理解するために必要な物理・化学の基礎知識の習得と、フィールド観測等で要求される高度な実験技術の習得を求めています。また、マイクロ分子・粒子からマクロな大気運動までを包括的に理解するバランス力や観測データを客観的に評価・解析して複雑な大気現象の奥に潜む規則性を見出せる観察力・洞察力を養うことも目指しています。(竹川暢之准教授：地球大気環境科学)



博士課程の学生は自ら最先端の研究に携わり、諸問題を解決し、得られた成果を国内外の学会で発信していきます。その過程で**世界の一流の研究者と議論し**、自身の研究成果の位置づけを再確認することで自信が芽生えます。この自信が博士課程修了後には昇華され、ゆるぎない自己形成の礎となって近い将来、リーダーシップを発揮するための基盤となるのです。(野口祐二准教授：化学認識機能材料)



最先端の研究活動を通じて高い目標を粘り強く突破する強い精神力、向上心、好奇心を兼ね備えた高い研究能力をもつ人材を輩出したいと思っています。東京大学の学生としてのプライドを持たせ、個人の能力や適応に合った教育に徹します。学生には単なる個人主義に走らず、グループ全体で大きな課題を突破する喜びを経験して欲しいと思っています。アカデリズムや民間企業を問わず、**広く社会で人の上に立つことのできるバランス感覚と人間性に満ち溢れた人材を育成したい**と考えています。(芹澤武准教授：バイオナノマテリアル)



当研究室は、将来のネットワーク社会はどうあるべきか、将来のネットワークを構築するにあたっての基盤技術は何か、といった事柄に明確な指針を与えることを目的としています。博士課程学生には、論理的思考力の強化は勿論のこと、研究開発の多彩な動向を踏まえ新しい世界を切り拓く力を育成する機会を提供しています。多様な関連業界の情報が集まってくることも大学の強みであり、ぜひ上手に活用して欲しいと考えています。(森川博之教授：情報ネットワーク)

